

学ぶ楽しさを実感できる国語科授業への改善

－わかる授業への改善を通して－

上野 保久 柏崎 純一 高橋 重年

1 はじめに

国語の基礎・基本の追求から、これまでに各領域の知識・理解の指導、技能の指導の研究に取り組んできた。その研究にあたって、常に欠くことができなかったのが、興味・関心・意欲の領域である。しかし、改めて、ここに視点を当てて研究することはなかった。なぜなら、学習効果を上げる、また、授業を有効に機能させるには、当然不可欠のものであったからである。これまでの研究の上に、更に国語科の指導事項の効果的定着を期待するとすれば、この領域にたどり着く。「確かな学力」を培うためには、これまでの研究で明らかになった事項を活用し、更に生徒の内から出る「学ぼうとする力」を引き出し持続させる必要がある。そこで、平成14年度から「学ぶ楽しさを実感する授業への改善」を目指して研究することにした。

2 これまでの研究

本校では平成10年度より「生きる力を高める教育課程の編成と実践（各教科の特性を生かして）」という研究主題のもと、「生きる力」を高める教育の在り方について研究を進めてきた。本校国語科としては「生きる力」を

(1) 自己の考えを明確に持ち、目的などに応じて論理的に表現する能力

(2) 話を聞いたり、文章を読んだりして必要な知識や情報を獲得し、活用する能力と捉えた。そして、これらの生きる力としての国語力の向上を目指すという観点から、論理的な表現力の育成をさらに進めるために、各領域についての指導法・指導過程、及び各領域間の関連指導の在り方を工夫してきた。

また、国語の改善の基本方針に示された「伝え合う力」を本校なりにとらえ、各領域相互の関連についても研究を進めてきた。

3 研究計画

(1) 第1年次（平成14年度）

ア 研究仮説の提示（「確かな学力」の定着のために）

イ 年間指導計画に位置付けた授業の試行と改善

ウ 国語科がとらえる「学ぶ楽しさの実感」の分析

(2) 第2年次（平成15年度）

ア 研究仮説に基づく実践（楽しさを実感させる授業の試行と改善）

イ 授業改善による生徒の変容の調査と分析

ウ 国語科がとらえる「学ぶ楽しさの実感」の分析結果の検証

(3) 第3年次（平成16年度）

ア 研究のまとめ（年間指導計画の修正、評価規準の検討）

イ 次期研究仮説の検討

4 平成14年度からの研究

本校では、平成14年度からは、「「確かな学力」を身につけさせる学習指導の在り方－学ぶ楽しさを実感できる授業への改善を通して－」というテーマで共同研究を立ち上げた。

学ぶ楽しさを実感させる授業を通して、「確かな学力」を定着させる学習指導の在り方を考える上で、国語科では、

国語科授業で社会生活に役立つ言葉の力を育成するためには、生徒の学ぼうとする意欲を喚起し、学び続ける態度を身に付けさせることが不可欠である。そのため、学ぶ楽しさを実感させるという視点で授業の改善を行うことが必要である。

という研究仮説を立て、以下のような研究テーマ及び研究方針を定めて、平成14年度より研究に取り組んでいる。

【研究テーマ】

「楽しさを実感できる国語科授業への改善－わかる授業への改善を通して－」

【研究方針】

- (1) 生涯学習の基礎的な資質の育成を図るという立場から、学習意欲を高めるための指導の工夫をすること。
- (2) 生活に役立つ言葉の力を育成するという立場から、生徒に定着させたい言語能力を一層具体化し、系統的に育成すること。

この研究を通して、生徒がそれまでに身に付けた国語に関わる能力を駆使して、さらに自ら国語の能力の向上を図っていく過程で、総合的に働く能力と態度を育成したいと考えた。

これを受けて、本校国語科では、生徒が学ぶ楽しさを味わうためには、授業が「わかる」ことが必要であると考えた。そして、「わかる」ということを、次のように分析した。

【「わかる」ということの分析】

- (1) 学ぶべき対象がわかる
- (2) 基礎的な知識・技能がわかる
- (3) 知識・技能の背後にある考え方などがわかる
- (4) 学んだことが自分の生活にどのように生かされるかがわかる

この中で、本研究は特に(1)と(4)の研究を中心に行い、国語科の持つ問題点や授業の在り方を少しでも改善しようと考え、研究1年目は実践、評価、改善に努めてきた。

5 授業改善の具体的取り組み

授業改善を行う上で、その手だてともいうべき授業改善の視点を次に示す。初年度の

段階から、この視点にあるものを全て実施することはできないが、国語科の永遠の課題でもある教材開発と指導過程の工夫に、より具体性を持って取り組んでいきたい。

(1) 授業改善の視点

ア 教材開発

① これまでの言語生活を見直し、その誤りに気づかせる教材

生徒は、日常生活に何不自由なく、日本語を使っているように見えるが、実はたどたどしいものがほとんどである。また、誤りも多い。しかも、その誤りに気づいていないことが多い。これまでの言語生活と適切な言葉の使い方とのずれを自覚させ、自らの言語生活を反省させることを目的とする。授業において、新鮮な驚きや感動を感じつつ自らの言葉の使い方の誤りに気付けば、適切な言葉の使い方を学び、望ましい言語生活につなげようとする意欲を高めることができると思う。

② 国語学習と生活の接点に気づかせる教材

生徒が普段の生活や他教科の学習を行う上で、疑問に思ったり、困ったりした場面を教材化し、導入に使う。日常生活と、国語学習には非常に大きな接点があることを生徒に自覚させることを目的とする。授業で学んだことが実際の生活に生きることを生徒が実感すれば、次の学習への意欲を喚起することができるであろうと考える。

イ 指導過程の工夫

① 定着させたい言語技能を明確にした指導過程

導入時に気づいた事柄をさらに深めることを目的とする。そのため、目標を絞って授業を展開する。これまであまり行われてこなかったドリル学習なども積極的に取り入れる。

② 実際の場を念頭に置いた指導過程

学んだ知識・技能が、生活に生かせるようにすることを目的とする。実際の場の中で目的を持って言葉を使う経験を重ねさせる。その際、相手意識、場の意識等、を考えさせることが必要である。ここでは、学校内に限らず、一般社会に目を向けた場の設定まで行うことが理想である。生徒は、多様な経験を積むことで、実際の生活に役立つ言語の力を身に付けていくと考える。

(2) 評価についての考え方の確立と工夫

ア 評価規準について

本校国語科では、学習指導要領に示されている目標及び内容が、基礎・基本であるとする。そのため、評価規準は、学習指導要領の文言を用いる。そして、生徒全員が規準に到達することを目指して授業を行った。その際、生徒が目的意識を持って授業に臨むことができるように、評価規準を生徒にも公開し、何をどれだけやればよいのかを明らかにした。

イ 自己評価について

本年度は自己評価を各題材ごとに行った。評価の観点は学習経験についてである。生徒がその題材でどのような学習経験を積んだのかを自己評価し、蓄積させたいと考えた。そして、蓄積した自己評価票をもとに、学期、年単位で振り返りの時間を持たせ、どのよ

うな国語力が付いたのか、自分にはどのような課題があるのかを自覚させるようにした。自分は国語の授業で何を学んできたのかがわかったり、学んだことのうち、理解が十分でないものは何かということがわかったりすることが重要であると考えたためである。また、授業改善の重要な手がかりにするため、生徒たちから、どのような授業であるとさらによかったかといった意見を集め、次の授業改善に役立てた。

6 実践例

【実践例①】

(1) 題材名 気持ちを表す言葉を増やそう

(2) 目 標

国語への関心 意欲・態度	・言葉に対する関心を持ち、意欲的に調べ学習を行い、自分の語彙を積極的に増やそうとする。
C 話すこと・ 聞くこと	・自分の選んだ「気持ちを表す」言葉についての調査結果を、他の言葉と比較し、違いを明確にして説明することができる。
〔言語事項〕	・「気持ちを表す」言葉の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意し、理解を深めるとともに、語彙を増やすことができる。

(3) 題材設定の理由

最近の生徒たちの語彙の少なさには閉口する。特に自分の心の状態を表現することが上手にできていない。自分の心の中にあるもやもやした感情を「むかつく」としか認識できず、正確に伝えることができないため、級友とのトラブルの原因にもなっている。

このような現状の中、新学習指導要領では、「伝え合う力」を重視し、第1学年の目標として、「A 話すこと・聞くことア 自分の考えや気持ちを相手に理解してもらえるように話したり、話し手の意図を考えながら話の内容を聞き取ったりすること。」と掲げている。

しかし、自分の不快な気持ちを漠然と「むかつく」としか認識できない生徒が、「自分の気持ち」を「相手に理解してもらえるように」話することができるはずがない。そのため、「自分の気持ち」をできるだけ正確に言い表すための言葉を増やすことが必要であると考えた。

本題材では、国語辞典を用いて「自分の気持ち」を表す言葉がどれほどあるのかに気づかせ、これまでの語彙の貧しさを実感させたい。また、その用法・用例をそれまで用いてきた言葉と比較・検討させることにより、その違いを明確にし、使い分けができるようにすることで、他人とのコミュニケーションの道具としての言葉の力に気づかせ、今後の言語生活に役立てることを意図した。

(4) 指導計画

時間	学 習 活 動	評 価 規 準 (下線はA 規準)	評価の主 体・方法
1 本時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師プリントに示された生活 場面と、「『ム力つく』類義語一覧」の語句とを対照する。 ・ 「いまいましい」を例にした教師の説明を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>様々な可能性を試しながら</u>、「ム力つく」という言葉を他の言葉に置き換えることができたか。 ・ 「いまいましい」の用い方を、<u>実際の生活場面を想起して理解することとともに</u>、本題材の作業内容を理解することができたか。 	教師の観察 作業用紙への記入 状況 教師の観察
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調べた言葉を含む文章を、日本国語大辞典、インターネットを用いて探し、その用例から、より細かな意味を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 選んだ語句の細かな意味を<u>用例を広く文献やインターネット等の情報源から探し</u>、明確にすることができたか。 	教師の観察 作業用紙への記入 状況
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調べたことをまとめ、発表会の準備をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 選んだ語句の意味を<u>他の言葉との違いを明確にして</u>発表原稿を作ることができたか。 	発表原稿
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発表会を開く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>分かりやすく説明することが</u>できたか。 ・ <u>話し手の意図を考えながら</u>正確に聞き取ることができたか。 	教師の観察 作業用紙への記入 状況

(5) 本時の指導

① 題 目 気持ちを表す言葉を増やそう

② ねらい

- これまでの言語生活を反省し、積極的に自分の語彙を増やそうとすることができる。
- 「ム力つく」という言葉で表現してきた生活場面を、多様な言葉に置き換えることができる。

③ 指導方針

生徒の実生活に根ざした授業を展開したい。そのため、生徒の意欲を喚起するような提示の仕方を工夫したい。

④ 展 開

具 体 目 標	学 習 活 動	評 価	指 導 上 の 留 意 点
○これまでの言語生活を振り返ることができる。	1 これまでの言語生活について振り返り,発表する。	・ <u>積極的に意見</u> を述べようとしているか。 (教師の観察)	・ 学習プリントを用い,「ムカつく」という言葉をいかに頻繁に使っているかを気づかせる。 ・ 「ムカつく」という言葉が,相手を攻撃する不穏当な言葉であることに気づかせる。
○本題材の学習目標を理解することができる。	2 本題材の学習目標について,教師の説明を聞く。	・ 本題材の学習目標を理解することができたか。 (教師の観察)	・ 本授業は,「気持ちを表す言葉」の語彙を増やすことが目的であることが分かるよう学習活動1と関連づけて説明する。
○辞書的な意味の違いにより,気持ちを表す言葉を生活場面に当てはめることができる。	3 学習プリントの生活場面と,気持ちを表す言葉を対照する。	・ <u>様々な可能性を試しながら</u> ,「ムカつく」という言葉を他の言葉に置き換えることができたか。(作業用紙への記入状況)	・ 数多くの例を示すことにより,生徒の驚きを喚起し,学習意欲を高めるようにする。 ・ 様々な可能性を試させる。 ・ 辞書による意味の違い等も考えられるため,二つの辞書を用いて意味を示す。 ・ 生徒に発表させるが,この段階では,あくまで市販の辞書を用いて検討しているため,厳密な意味の違いまでは問わない。
○「いまいましい」の用い方を実際の場面を想起して理解することができる。	4 「いまいましい」をとりあげた教師の説明を聞く。	・ 「いまいましい」の用い方を <u>実際の場面を想起して</u> 理解するとともに,本題材の作業内容を理解することができたか。 (教師の観察)	・ 「いまいましい」を例とし,教師が実際の作業手順に従って内容を説明する。 ・ 実際の用い方について,生活場面を文章化することを告げる。
○次時の学習内容を理解することができる。	5 次時の学習内容を知る。		・ 次時は,グループ活動で日本国語大辞典,及びインターネットを用いて,さらに用法・用例を調べていくことを告げる。

(6) 考察

本題材は、学習意欲を向上させるため、生徒自身の言語生活の誤りを「身近」な生活場面より取り出し、ぶつけてみることにした。生徒たちの反応は上々であり、「なるほど確かにそうだ、ム力つくを連発している。」「ム力つく以外の言葉を意識して使うことはなかった。」「一見、同じ気持ちであるかのような場面も微妙に違っていた。」等、自分の言語生活の貧しさを素直に認める意見を教師に返してくれた。自分では意識することのなかった言語生活における問題を教師が取り出し、突きつけられたことが刺激になったようである。そのため、自分の語彙を増やすという目標のもと、活動を意欲的に行うことはできた。しかし、1年生のため、調べ学習の手順がしっかりと身に付いておらず、調べ方やまとめ方などで教師の援助を多く必要とした点が今後の課題として残った。また、用例を探すのに使用した日本国語大辞典は、古い文章を用例として用いている場合が多く、生徒の理解をより困難にしてしまった。そのため、インターネット上のWebサイト「青空文庫」のみを使用した方がよかったかと考えた。「青空文庫」は、語句の検索機能が充実しており、「青空文庫検索ページ」において所蔵するすべての作品からの検索を瞬時に実行することができる。今回の授業もこのWebサイトなしには成立し得なかった。国語科の調べ学習では、調べる時間はできるだけ短縮したいと考える。国語科で問題にすべきは、調べた内容ではなく、言葉そのものだからである。

本授業では、生徒の知的好奇心に働きかけて、学習に対する動機付けをすることに成功したと考える。しかし、動機付けをする方法は、今回のような方法だけでなく、他にも様々なものがある。心理学者バーラインは知的好奇心を引き起こす方法として、次の五つの形式を示した。すなわち、

①驚き（子どもが過去の学習とか経験に基づいて予想する現象と相反する現象、起こりそうもない現象を示し、そこに生ずる驚きの感情を動機付けとして利用する。）、②疑問（有効かどうかはっきりわからないような一般的な原理・考えを提示し、信じようか信じまいかといった疑問を生じさせる。）、③当惑（一つの問題に対し、可能と思われる答えがいくつも存在し、どれが一番正しいかわからない場面を与え、当惑を生じさせる。）、④頓挫（明らかに矛盾し、両立しないようないくつかの要求が同時に存在し、葛藤を生じさせる場面を提示する。）、⑤矛盾（ある命題が正しいことを学習した後で、それに当てはまらない事実や考えを示して矛盾を引き起こす。）である。今後はこのような考え方も参考に、生徒の学習に対する動機付けが高まるであろう教材提示の仕方を工夫していきたいと考える。もちろん、生徒の言語能力を高めるため、「何を」教えるかの部分も明らかにしていかなければならないとも考えている。

【 主な参考文献 】

「学習意欲の高め方」辰野千寿著（図文新書）1977年初版 1995年改訂版第4刷
「教育基本語彙の基本的研究」国立国語研究所報告（明治書院）2001年
「中学校語彙指導の活性化」浜本純逸編（明治図書）1990年

【実践例②】

これまでの授業は、生徒が主体であるにもかかわらず、教師の視点でその評価がなされ改善がなされてきた。また、これまでの自己評価についても、その効果を知りつつも、形式的なものになりがちで、やらせっぱなしの感があった。教師が授業を改善しようとするならば、その主体である生徒がどのように授業に取り組み、どのような成果を上げたと感じているかを知るべきである。

これまでの反省に立って、本年度の取り組みは、生徒に自己評価させ、その評価を生徒自身はもとより、授業者の授業改善に最大限に生かし、教師の視点と生徒の視点から、より意欲的に取り組める授業に改善していこうということに力を注いだ。その実践例を以下に示す。

1 自己評価までの手順と活用の仕方

- (1) 学習の最初や途中に、学習の目的や、到達して欲しい規準を生徒に示す。

導入の仕方によって、指導過程のどの位置で示すかは異なってくるが、生徒が納得しやすくなるように、効果的な位置づけが必要である。できるだけ、多様な示し方をする方が、飽きがこなくて良いと考える。

- (2) 各題材終了ごとに、自己評価をさせる。・・・・・・・・・・資料 5

ここで、どのような目的を持って、どのような内容の学習をしたかを思い起こさせるとともに、自らが、どのように授業に取り組んだかも評価させる。そのことは以後の授業に大きく活用されたと考える。「感想」や「先生に言いたいこと」などは、授業者が授業改善を図るのに、大変参考になる。また、振り返りの時間に、当時の自分の取り組みを思い起こすのに、有効である。

この自己評価は、単に国語科における言語活用のための技術面を伸ばしていくことのみを目指すのではなく、自らが授業に取り組む姿勢や、次への意欲付けということも目指して作成した。その評価項目は、生徒の学習経験がいかに保証されていたかを授業者自身もチェックできるように工夫した。

- (3) 回収して、生徒の評価状況を観察し、授業改善の参考にするとともに、そのまま教師が保管する。

教師にとって、これを読むのは、大変興味深い。行った授業が有効であったかどうかの審判を生徒から受けることになるからである。ここで大切なのは、あまり芳しくない結果であったとしても、落ち込むことなく、授業改善が必要であったと謙虚に受け止めることである。

- (4) 2学期の最終授業に、蓄積した自己評価用紙を返却し、振り返りの時間を持たせる。

個人の自己評価を全て配布した後、ステープラーで綴じ込む。生徒はその厚みを感じながら読み返し、これまでの国語学習を振り返るのである。

- (5) アンケートをとり、総括的に自己を振り返らせる。・・・・・・・・・・資料 6

生徒は自己評価綴りを読み返しながらか、このアンケートに答えていく。アンケートの内容は以後に示す。

- (6) アンケートを回収して、授業改善の参考にする。

2 アンケート「国語の授業を振り返って」の結果と考察

アンケート対象生徒 第3学年154人

アンケート時期 2学期最後の授業

Q1 「どのような国語の力がついたか」

生徒は様々な「力」を挙げてきた。領域ごとに分けるには多少無理があるが、そのいくつかを取り上げて、以下に分類する。

「話すこと・聞くこと」

- 自分の意見を相手に伝える力 ○意見を発表する力 ○人の前で話す力
- 自分の考えだけでなく相手の考えも受け入れて考える力

「書くこと」

- 作文やレポートを書く力（特に書く力はすごくついたと感じる。国語の授業はレポートが多かったので書く力がついた。） ○自分の意見をまとめる力
- 自分の意見を相手に伝える力 ○自分の考えを持ちそれを文章で表現する力

「読むこと」

- あふれる情報の善し悪しを見分ける力 ○文章を楽しく読めるようになった。
- 論理構成をとらえながら考えたりする力 ○文学的文章の読解の力 ○文章を深く読む力

「言語事項」

- 文字をきれいに書く力 ○言葉を広げる力 ○知らないことを調べる力（知らない熟語 などは必ず辞書で引くようになった。） ○漢字力 ○敬語を使える力

この項目の記述を見ると、授業者としては嬉しくなる。良くもと思うほど、自分に着いたであろう力を考えている。逆に、このような力をつけるために授業をしたであろうかと疑問も残る。そう考えると、これらの力は、実は、「国語の授業で着けたかった力」も多分に含まれているのではないかと思えてくる。

Q2 「理解が不十分であったり、自分の課題として残ったことはどのようなことか。」

この質問に回答した生徒は、1, 2項目挙げているが、トータルするとほとんどの授業についてなにがしかの理解不十分や課題が残っている。そのいくつかを以下に示す。

「話すこと・聞くこと」

- 相手に伝わるようなスピーチの仕方をもっと勉強すべきだと思った。もっと上手にしたい。（声が小さいこと、下を向いて話すこと、内容がしっかりしていないことを直していきたいです。）

「書くこと」

- 作文で上手に自分の書きたいことがまとめられなかった。
- 作文（文の構成やねじれについて）

「読むこと」

- 文章の要点がどこなのかわからない時があった。

「言語事項」

- 文法が良く理解できませんでした。(頭が混乱する。)
- 尊敬語と謙譲語の違いがよく理解できていなかった。
- 3年生で習った漢字の読み書き

自己の課題

○文章を読むスピードがすこし遅いということ ○作文などの文章を書くスピードが遅いこと ○字をきれいに書くこと ○他者の考えを理解することやそれを参考にする力
○集中力や誤字 ○提出物の遅れ ○授業で文章を書いているうちに気づきました。
私の文章は脱線すると。いちばん問題のある点だと思っているので、これからの課題にしたいです。

具体的な学習目標が達成できなかったという反省のもとに、理解不十分な項目を挙げている生徒が多い。また、振り返ることで自分の課題となることを発見している生徒もいる。例えば、自分は「文章を読む(書く)スピードが遅い」ということがわかったという生徒がいる。その生徒は今後そのことを意識して学習するだろう。また、「他者の考えを理解することやそれを参考にする力」が不十分であると考えた生徒がいる。その生徒は、他者の考えを聞いて吟味し、自分の考えをまとめる参考にするものの有効性をわかっているが、まだ不十分であると判断している。これらの気づきは、多様な個の集団である学校の授業の利点から得られたものである。しかしこの気づきも、振り返り無くして意識化しない。この点では、振り返りの有効性が証明されたと考える。

Q3 「どの授業がよかったか。理由も述べよ。」

授業の形態や工夫に着眼したもの

- 学習の進度を余裕を持って示してくれたから(3分間スピーチ)
- やり方だけでなく、実際にスピーチをする機会が得られたから。(同)
- 教科書の部分だけでなく小説一冊全部読めたから。(いちご同盟)
- 教材自体がよかったから(同)
- レポートを書くことで、より理解することができたから(同)
- 個々のペースをある程度尊重してくれたから。(新聞を読む)
- 主張を書く対象を選ぶことができる授業だったから。(同)
- 普段読んでいる新聞をより多角的にとらえることができたから(同)
- 先生の持ち出してきた例が興味深かったから。(様々な情報を見分けよう)
- 様々な情報を授業の中で見分けて見せてくれたことが楽しかったし、興味が持てたから(同)

役に立つことに着眼したもの

- 話す内容を構成し限られた時間内で相手にうまく伝える力は今後役に立つと思うから(3分間スピーチ)
- 毎日たくさんの情報を得ているので、必要な情報や情報の信憑性を見分けるのに役立

つから（様々な情報を見分けよう）

○論理的に相手に説明する時に必要な技術だから（新聞を読む）

○これから社会に出たら絶対必要になるから（敬語について）

○構造読みなどはテストの時などにとっても役立ちそうだから（論理構成の授業）

理解できた、力がついた、好きになったという自分の変化に着眼したもの

○スピーチの組み立て方やよいスピーチの仕方などがわかったから（3分間スピーチ）

○私はとても緊張しやすかったが、この授業で人前で話すコツをつかむことができたから（3分間スピーチ）

○楽しく取り組めた授業だったので、苦手の作文（レポート）もやりやすかったから。

（いちご同盟）

○これがきっかけで、小説が大嫌いだったのに好きになったから。（同）

○おもしろい本があったら読んでみようと思うきっかけになったから（同）

○表現力や作文力、論理的な思考力が高まったと思うから（新聞を読む）

○人に伝わりやすいように考えながら書く技術が得られたから（同）

○新聞の見方が変わり、社会に興味を持てるようになったから。（同）

○暗唱することで、難しいというイメージがなくなったから（おくの細道）

○曖昧な敬語をただすことができたから（敬語について）

○身近なものの知識を深めることができたから（漢語の構成）

楽しさや充足感に着眼したもの

○友だちのスピーチを聴くのが楽しかったから（3分間スピーチ）

○いろいろな人に自分をわかってもらえたから（同）

○読書が好きで、うまい描写や自分の読みについてレポートにまとめるのが楽しかったから（いちご同盟）

○登場人物の気持ちの変化の読みとりが面白かったから（同）

○先生のだまされた話がおもしろかったから（様々な情報を見分けよう）

○暗唱するのが楽しかったし、すらすらできた時とても嬉しかったから（おくの細道）

○短歌や俳句が好きなので、すぐれた作品を読むことができてうれしかった。もともと好きだから（俳句）

○熟語の構成を勉強すれば、漢字の意味も一緒に覚えられ楽しかったから（漢語の構成）

○訳したり背景を見ながら勉強することができ、わかりやすく楽しかったから（漢詩）

○中国語で漢詩の朗読を聞くことができたから（同）

○いろいろな考え方ができて楽しかったから（詩の授業）

どのような視点から、その授業を「良い」としているかを分類してみると、上述のように「授業の形態や工夫に着眼したもの」「今後役に立つことに着眼したもの」「自分の変化に着眼したもの」「楽しさや充足感に着眼したもの」におおよそ分類できる。これらの観点は、本研究の「楽しさが実感できる授業」改善への観点になるだろう。生徒のコメントと、授業者の授業意図が合致した部分は、成果として確認していきたい。

Q4 「どの授業がよくなかったか。理由も述べよ。また、どのような授業であつたらよかったかも述べよ。」

学習する意味に疑問を持った授業

- 何のために暗唱するのかわからなかった。暗唱のコツを教えてもらいたかった。入試に出てきそうな語句について詳しく教えてほしかった。(古典)
- それを学んで何になるのかよくわからなかったから(敬語)
- もっと実践的な授業をしてほしかった。(敬語) ○格別得るものがなかったから(敬語)
- 何をやったかさっぱり覚えていません。どんなことに役立つ勉強だったかよくわからなかったからです。(様々な情報を見分けよう)

中途半端な感じが残った授業

- 暗唱する時間がもっとほしかった(おくの細道)
- 説明を受けるだけの感じがした(古典)
- 授業のペースが速くついていけなかったと思う。(古典)
- 内容が薄かった気がする(漢詩)
- 自分がちゃんとできているかを試すために練習問題をやらせてほしかった。(敬語)
- 難しすぎたのでもうちょっと簡単にした方がよい。(様々な情報を見分けよう)
- プリント作業に終始した感がある。深い説明があるとよかった。(漢語の構成)
- 小説を読む時間が長すぎた。読むだけの授業は得るものが少ないと思う。(いちご同盟)
- 小説を読む時間が少なくて深く読むことができなかった。(いちご同盟)

課題がうまくできなかつたり、達成感がなかった授業

- あまり古文に慣れていないのでよく理解できなかったから(古典)
- よくわからなかったから(漢詩)
- 自分がいまいち情報を見分けられなかったから(様々な情報を見分けよう)
- うまくできなかつたから(3分間スピーチ)
- 心情が読みとれないから(いちご同盟) ○あまりよく理解できなかったから(文法)

改善案

- ずっと先生の話聞いていてつまらなかったから、プリントなどで工夫するとよい。(古典)
- 暗唱中心になってしまったため芭蕉の作品を深く味わうことができなかった。もっと内容について詳しく話した方がよかった。(古典)
- もっと他の歌を自分で読んでみたり、考えさせる授業であるとよかった。(古典)
- 自分で簡単な漢詩を作るとか、もう少しいろいろやってみたかった。(漢詩)
- 実際に場面を考えて友だち同士で話し、お互いちゃんとした敬語になっているか考えるような授業だったらよかった。(敬語)
- もっと生徒が参加できる授業がよかった。(様々な情報を見分けよう)
- 身近なものではないので難しかった。(漢語の構成)
- 題材を先生の方で設定してほしかった。(3分間スピーチ)
- みんなの前で発表するのが苦手だったので、もう少し少人数の中での発表の方がよか

ったと思いました。(同)

○意見を書くための記事探しでつまずくと大きく遅れるから、先生が参考になる記事を提示してくれるとうれしいです。(新聞を読む)

○意見についてディベートのようなものがあるとよかった。(同)

○それを発展させた練習問題もやってほしい。国語が苦手だから。入試傾向や解説も。
(文章の読解)

どのような視点から「良くない」授業であると判断したかを分類すると、「学習する意味に疑問を持った授業」「中途半端な感じが残った授業」「課題がうまくできなかったり、達成感がなかった授業」等に分類できる。どの項目も授業改善に関わる重要な観点を提示している。また、「改善案」についても、生徒がかつて意欲的に取り組めた授業を想起しての意見と考えると、今後の授業改善の大きなヒントになると考える。

Q5 本年度のように、題材ごとに自己評価をすることは、あなたにとってどのような効果があったか。

自己評価をすることの効果을認めている生徒	150人(97.4%)
認めていない生徒	4人(2.6%)

効果を認めている生徒

授業に対する態度への効果

- こまめに自分の授業に対する姿勢をチェックすることが出来た。
- 自分の学習態度などを振り返り、次の授業にどうつなげていくかを考えた。
- 国語に対する取り組み方が良くなったと思う。
- 今まで習ってきたことに対して自分の取り組みがよくわかる。

自分の理解度への効果

- 自分の得意・不得意、好き・嫌いが見えてきた。
- 自分がわかっていることとわかっていないところがわかり、そこからどうすればよいのか考えることができた。
- 授業でどのようなところを理解すればいいのかなどがわかった。
- 達成度を認識できた。
- 授業でやったことの自分の理解度がわかり、自分のこれからの課題を見つけることが出来る。
- 自分がその時どれだけわかったのか、そしてどう思ったのかがよくわかって良いと思いました。
- 自分自身の足りないことやよくわかった点などがわかるので良かった。
- 自分の弱点を改めて確認することが出来た。

- 自分の悪いところを見直すことが出来た。
- どこが身に付いていないかがわかることで、ポイントを絞って勉強できた。
- 自分がどのくらい授業を理解したかわかったことが良かった。
- 問題点をいくつか発見できた。
- 自分がどのくらい理解しているか、自分もわかるし、先生にもわかってもらえるので良かった。

学習事項が確認できる効果

- 学習内容の最後の確認のような感じであって良い。
- 振り返ることで自主学習の目安になった。
- 一度終わった単元も、自己評価することできちんと記憶することが出来、覚える事項も頭に入りやすい。
- どのような授業を受けたか思い出すことが出来た。
- その授業でどんなことを学んだか思い出して、もう一度考え直すことが出来た。復習のようなことが出来る。
- 授業で行ったことや学んだことをもう一回頭に浮かべられた。やったことを思い出すためにノートを見たら、重要なキーワードとかをもう一度確認することが出来た。
- その授業の意味を考えることにもなった。
- その授業での目的を改めて確認し、その目的について反省したり出来るのでよいと思う。
- 単元ごとに反省することによって自分の中で自分が授業で学んだことを思い起こして整理できるので、是非これからも続けてほしい。
- 授業が終わった後に改めてもう一度授業でついた力を確認することが出来る効果
- 自己評価票があることによって、まとめられた時に何をやったのかを簡単に思い出せるようになった。
- （最後にまとめることによって）今までの国語の授業で私たちが何を勉強したかわかるので、とても良いことだと思う。

こまめに評価することへの効果

- こまめに振りかえることにより、自己評価を満たせるように次も頑張ろう！という気持ちになった。
- 一回一回自己評価することで、一つ一つの課題について印象深くなる。
- やった直後に反省が書けるので、年に1回だけよりは書きやすかった。
- この時自分はこんなことを考えて学んでいたのかとわかり面白い。
- 自分なりの反省をこまめに出来て良かった。
- 自分の考えの変化や傾向が明確になった。

その他

- 題材を振り返るとともに今後についても考えることが出来るのでよい。
- 授業内容を振りかえり要点の確認が出来たと考えられるが、実際の効果といえるべきものがあるか否かは確信できない。
- 自分にどういう力がついて、どういう力が不十分だったかがわかる。
- 授業の内容や自分の考えなどを毎回振りかえることが出来て、今後の課題や生かし方

を考えることにつながった。

- 反省することにより、家庭での学習で対策が立てやすかった。
- 後で自分なりに自己課題を見つけたりすることが出来ること。
- 自分の苦手な分野や得意な分野がわかったり、自分にどんな力がついたのかわかって良かったと思う。
- 充実感を得られる。
- その授業に対していいことや先生に伝えたいことが遠慮なく書けて嬉しかったです。

効果を認めていない生徒

- 特に効果はなかった。
- 質問に対して「いいえ」と答える人はあまりいないと思うから、評価をつけるのに役に立たないと思う。
- 面倒くさかった。
- 最後にまとめて書くのでは意味が無く大変なだけ。

集計結果でもわかる通り、ほとんどの生徒が自己評価することの効果을認めている。生徒の回答を分類すると、「授業に対する態度への効果」「自分の理解度への効果」「学習事項が確認できる効果」「こまめに評価することへの効果」等に分類できる。特に「自分がどのくらい理解しているか、自分もわかるし、先生にもわかってもらえるので良かった。」という記述には、評価票を授業者が回収し保管することへの生徒の信頼を意味していると考えられる。この点については、授業者は確実にその信頼に報いなければならない。また、「こまめに振り返ることにより、自己評価を満たせるように次も頑張ろう！という気持ちになった。」という記述も見逃せない。本校国語科で目指す「学習意欲の持続」という点でわずかながらではあるが、成果があったと考えたい。今後の実践によって、検証していきたい。

7 研究の成果と今後の課題

本年度は、年間指導計画に基づいて授業を実施してきた。前述の「授業改善の視点」にある項目のいくつかが実施できたと思う。また、評価についても、年間指導計画にある評価事項の修正・改善ということを意識した。生徒の自己評価においても、積極的に授業改善の重要な参考資料とした。本年度の実践における成果は、ほぼ予想通りのものが得られたと考える。しかし、「授業改善の視点」について、全て試行したわけではない。また、別の視点も考えられるかもしれない。改善したつもりの授業が、本当に改善されたかも検証しなくてはならない。次年度の取り組みは、更に具体的なものにしていきたい。

【 主な参考文献 】

- ・「言語学習 その方向と実践」長尾高明著（尚学図書）1995年
- ・「生きる力を支える学習意欲の育て方A～Z」北尾倫彦編（図書文化）1997年
- ・「自ら学び自ら考える力を育てる授業の実践」北尾倫彦編（図書文化）1999年
- ・「提言国語科授業改善十二章」尾木和英著（三省堂）1999年
- ・「教育評価〔第2版〕」梶田勲一著1999年
- ・「国語教育の方法」田近洵一著（国土社）1997年
- ・「わかる授業の心理学」北尾倫彦・速水敏彦著（有斐閣選書）1989年
- ・「説明的文章教育の目標と内容」森田信義（溪水社）1998年
- ・「学び方を学ぶ 中学校編」柴田義松編（明治図書）2000年
- ・「言語論理教育入門－国語科における思考－」井上尚美著（明治図書）1989年
- ・「学習意欲の高め方・改訂版」辰野千寿著（図書文化）1995年
- ・「消える授業 残る授業」小西正雄著（明治図書）1997年
- ・「指導と評価1999年10月号」（図書文化）
- ・「指導と評価2000年2月号」（図書文化）
- ・「指導と評価2002年5月号」（図書文化）

資料 1

「ムカつく」とどんな気持ち？


1年 組氏名 ()

☆皆さんの生活の中で「ムカつく」という言葉が頻りに使われていますよね。でも、「ムカつく」が本当はどんな気持ちを表す言葉なのかを考えたことはありませんか。今回は、この言葉に注目して学習してみましょう。

一 「ムカつく」時ってどんなとき？ (皆さんの「ムカつき」体験を思い出していきましょう)

二 こんな時どんな気持ちと表現する？
(次の場面にはまりそうな気持ちを表す言葉を、後から選んでみましょう)

記入らん

- | | | | |
|---|---|---|-----|
| ① |  | (テストの時、「全然勉強していない、やばい」と言いながらいい点を取った奴がいた時) | () |
| ② |  | (自分が時間をかけて一生懸命やっていたことに対して、友人にあつさり「意味ないよ」と言われた時) | () |
| ③ |  | (夏の夕方に小さな虫が大群で飛んでいるのに気づかず横切ってしまった、その虫がいつまでもついてきた時) | () |
| ④ |  | (自分の片思いしている好きな異性をとても仲のいい友達に取られた時) | () |
| ⑤ |  | (厳しい先輩がやつと部活を引退したと思い、ほっとしていたら、何かにつけて、練習を見に来る時) | () |
| ⑥ |  | (バスの降車時に両替で手間取っている奴のせいでなかなか降りられない時) | () |
| ⑦ |  | (自分がなかなか出来なくて「難しいよね」と友達に言ったら、「どこが？」とそっけなく返された時) | () |
| ⑧ |  | (うまいうまいと評判のラーメン店にいったら、行列で皆さん待たされたあげく、たいしておいしくなかった時) | () |
| ⑨ |  | (ゆっくり買いたい物をしたいのに、やけになれなれない店員が近寄ってきた時) | () |
| ⑩ |  | (グループでおしやべりしているとき、その場にはいない自分の親友の悪口で盛り上がった時) | () |

資料 2

言葉

いまいましい

★ 意味
A 自分にひどい打撃を与えた者や、取り返しのでない自分の失敗などを思い出しては、相手(自分)の存在をのろいたい(強くうらむ)気持ちだ。

「我々の職場を奪ったまいましい自動制御装置」 新明解国語辞典第5版(三省堂)

B はらだたしい。しゃくにさわる。(はらがたつ)
「まったくまいましいやつだ。」 新選国語辞典第7版(小学館)

☆ 日本国語大辞典

言葉

いまいましい

- ① 腹 けがれに触れたり、または出家などの身分がらのため、いみづかなければならない。遠慮すべきである。はばかりべきである。不幸を連想させるようなさまである。不吉である。縁起が悪い。忌まわしい。
- ② 陰 気である。暗く沈んでいて活気がない。
- ③ 満足できず、心残りである。後悔される。
- ④ いやな感じである。感心しない。どうかと思われる。
- ⑤ (感動表現として) まあいやだ。まああきれた。
- ⑥ しゃくにさわる。こしゃくだ。してやられて腹立たしい。
- ⑦

用例(事の名)

夜明け前(島崎藤村)
「あとになってガラスだと知れた時は、いまいましくなってその大王の目を捨ててしまったという」

夜明け前 第一部下 9章 4

寺がある。付近は子供らの遊び場である。寺には開闢大王の木像が置かれている。その大王の目がきらきら光るので、子供にもそれを水晶であると考え、得がたい宝石を欲しさのあまり盗み取るつもりで、昼でも寂しいその古寺の内へ忍び込んだ一人の子供がある。木像に近よると、子供の手が届かない。開闢大王の膝に上り、短刀を抜いてその目をえぐり取り、莫大な分捕り品でもしたつもりで、よるこんで持ち帰った。あとになってガラスだと知れた時は、いまいましくなってその大王の目を捨ててしまったという。これが九歳にしかない当時の水戸の子供だ。

短文例

「いまいましい」は自分がだまされたと感じたり、相手にうまくやられたと感じたときに腹が立つ感覚である。

卒業の贈り物の時、自慢を持って持ってきた宝飾品を盗み取られたが、その反論にクラス全員が賛成して、言い返すことができた。いまいましい思いをした。

「むかつく」の類義語？一覧表

NO	語	漢字	意味 (上段は新明解国語辞典、下段は新選国語辞典)
ア	いまいましい	忌まらしい	①相手のひどい仕打ちや、取り返しのつかない自分の失敗などを思い出しては、相手 (自分) の存在がのろいたい気持ちだ。 ②腹立たしい、しゃくにさわる
イ	うととうしい	鬱陶しい	①なにかがおおいかぶさっているようで、暗れ暗れない様子だ。 ②陰気で気分が良くない ③なにかがおおいかぶさるようで、わずらわしい
ウ	うとましい	疎ましい	① (それについて見たり聞いたりするの) いやでたまらない様子だ、いとわしい ②このまじくない、いやだ
エ	うらめしい	恨めしい・怨めしい	①恨みたくなる気持ちだ ②残念だ ③恨みに思われる ④残念だ、なまけない
オ	うらやましい	羨ましい	①望ましい相手の状態を見て自分もそうなりたいたいと思う (が、そうならなくて不満に思う) 気持ちだ ②恵まれた人を見て、自分もそうなりたいたいと思ってしまう。うらやむ心地がする
カ	うるさい	煩い・ (五月蝋) い	①いつまでも耳や身につきまとうため、不快でたまらない。しつこい ②自分にとってはどうでもいい事をわざわざわいしにまで強制 (固執) したり厳しかったりするので、できるなら相手から逃避したい気持ちだ ③音や声が耳障りだ、さわがしい ④くちやかましい、文句ばかり言う ⑤しつこくてたまらない、わずらわしい ⑥よく知っていて、厳しい批評の目をもっている。
キ	おしつけがましい	押し付けがましい	①何かを無理に押しつけるように感じられる様子だ。 ②むりにやらせるような様子だ
ク	きさぐるしい	聞き苦しい	①話の内容がお粗末であったり人の悪口ばかり言ったり自画自賛であったりして、聞いているのが嫌になる様子だ。 ②雑音が混じったり、音声が途絶えたりして聞きづらいう。
ケ	くちおしい	口惜しい	①聞きづらいう。きくにたえられない。 ②相手の品性の下劣さがわかったり粗悪な対象をつかまされたりして、それらに期待をかけた自分の鑑識力のなさがたまらなく嫌に思われる様子だ。 ③残念だ、くやしい。
コ	くちやかましい	口喧しい	①言葉が多くてうるさい。 ②小さな事にもうるさくがめだてする様子だ。 ③ちよつとしたことにもうるさく言う様子。口うるさい。
サ	くどい		①調味料・色彩などが多すぎて、かえって味・趣をぶちこわしにする様子だ。 ②同じようなことをしつこく繰り返して、うるさく感じられる様子だ。 ③しつこい、濃厚すぎる
シ	くやしい	悔しい・ (口惜しい)	①自分の受けた挫折感・敗北感・屈辱感などに対して、そのままあきらめることが出来ず、どうにかしてもう一度りっばにやりとげてみたい (相手を見返してやりたい) という気持ちに駆られる様子だ。 ②あきらめがつかない。残念である。くちおしい。
ス	けむたい	煙たい	①けむい ②遠慮なく近寄ることが出来ず、鬱屈な感じだ。 ③煙にむせて苦しい。けむい。 ④気づまりだ。気兼ねされる。
セ	なさけない	情けない	① (期待にはずれた状態や場面に合意) ひどすぎて見聞きすることがいやな感じだ。 ②ふがいない。意気地がなくてがっかりだ。 ③みじめで、恥ずかしい ④あさましい。なげかわしい。
ソ	にがにがしい	苦しい	① (どうにかしようと思っても出来なくて) 不愉快だ。 ②たいへん不愉快だ。
タ	にくらしい	憎らしい	①憎いと思う気持ちを起こさせる気持ちだ。 ②かわいらしくない。 ③気にくわない。腹が立つ。憎い。
チ	ねたましい	厭ましい	①ねたまたくなるような気持ちだ。 (ねたま…他人の幸運・長所をうらやんで、幸福な生活のじゃまをしたく思う) ②うらやましく、にくらしい。
ツ	はがゆい	歯痒い	① (事態の推移などが) 思いどおりにならず、もどかしい。じれったい。 ②思うようにならなくて、心がいらぬ。もどかしい。じれったい。
テ	もどかしい		①早く目的の所に達したい (ものに接したい) という気持ちがいつぱいでそこに達するまでの途中にあるすべてのものがわずらわしくなる。 ②思うようにいかず、じれったい。はがゆくて、いらぬ。

[illegible][illegible]

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]

国語科自己評価表

3 年 組 番 氏 名 ()

☆ 学習テーマ「主張を書こうー新聞を読むー」

次の各項目は、授業中の活動や考えについてのものです。この項目をよく読み、あなたのこの6時間の授業中の活動や考えがどうかあったかを思い出して、はい・いいえのいずれかで答えてください。

質 問 項 目	答 え (どちらかに○)
○ この「新聞を読む」という授業は、自分にとって楽しく生き生きとしたものだった。	はい いいえ
○ この授業でやったこと（新聞の特性を知り、新聞から意見を述べる材料を探し、根拠を明確にして意見文を書く。グループで相互評価を行い、自分の文章の参考にする。）が、だいたいできた。	はい いいえ
○ この授業で、自分なりに考えたり、工夫したりすることができた。	はい いいえ
○ この授業に対して、真剣に取り組むことができた。	はい いいえ
○ この授業で、他の人たちの考えを十分に理解することができた。	はい いいえ
○ この授業でわかったことや考えたことに対して、これからは常に意識し、実際の生活で役立てようと思った。	はい いいえ
感想	

国語の授業を振り返って

本年度は、題材ごとに自己評価を行ってきました。今、皆さんの手元にある数枚の自己評価用紙がそれです。その自己評価用紙を見直してみて、次のアンケートに答えてください。

1 あなたは、4月から12月までの国語の授業で、どのような国語の力がついたと思いますか。「・・・(どのような)力」というように答えてください。

2 あなたは、4月から12月までの国語の授業で学んだことのうち、理解が十分でなかったこと、または、自分の課題として残ったことは、どのようなことだと思いますか。

3 あなたは、4月から12月までの国語の授業について、どの授業が良かったと思いますか。理由も書いてください。(複数回答可)

4 あなたは、4月から12月までの国語の授業について、どの授業が良くなかったと思いますか。理由や、どのような授業であると良かったか等の意見を書いてください。(複数回答可)

5 本年度のように、題材ごとに自己評価をすることは、あなたにとってどのような効果がありましたか。